

使ってみよう
銚子弁

愛すべき銚子弁。
 知らない言葉は、
 家族や近所のおじさ
 んおばさんに発音を
 教えてもらいましょ
 う。いつの間にかあ
 なたも便利な銚子弁
 のとりこになるはず。

「びんちょ」=「そろわない」

【使用例】あんだや、手袋がびんちょだったーどえ。



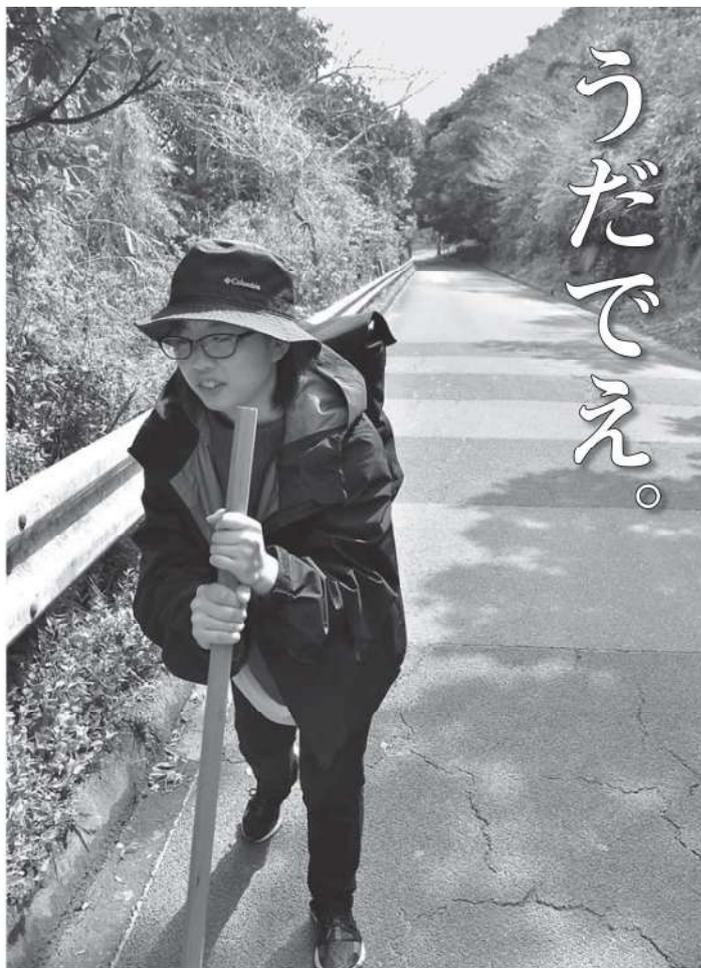
びん
 ちょ
 よ。

使ってみよう
銚子弁

愛すべき銚子弁。
 知らない言葉は、
 家族や近所のおじさ
 んおばさんに発音を
 教えてもらいましょ
 う。いつの間にかあ
 なたも便利な銚子弁
 のとりこになるはず。

「うだでえ」=「つらい」

【使用例】おおうだでえ。もお登れねーどえ。



う
 だ
 で
 え。

使ってみよう
銚子弁

愛すべき銚子弁。
 知らない言葉は、
 家族や近所のおじさ
 んおばさんに発音を
 教えてもらいましょ
 う。いつの間にかあ
 なたも便利な銚子弁
 のとりこになるはず。

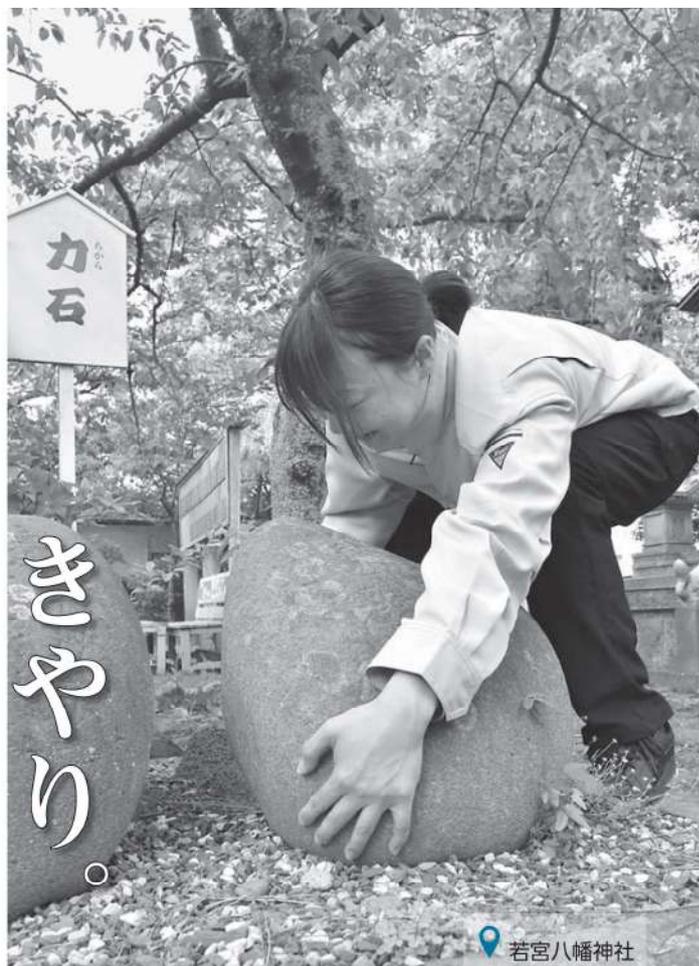
「きやり」=「ぎっくり、身体の一部を捻る」

〔使用例〕きやりやっちゃーがら、き一つけらっせえ。

このほかに

「きやり」=「同じくらい、似てる、近い」

〔使用例〕カタツムリはナメクジにきやり。



若宮八幡神社

※画像はイメージです。持ち上げるのはお控えください

使ってみよう
銚子弁

愛すべき銚子弁。
 知らない言葉は、
 家族や近所のおじさ
 んおばさんに発音を
 教えてもらいましょ
 う。いつの間にかあ
 なたも便利な銚子弁
 のとりこになるはず。

「べえぼ」=「くぼがい、すがい など」

〔使用例〕べえぼ、いっぺーとれだーよ！

それ、からしべえぼって言うだい。



使ってみよう
銚子弁

愛すべき銚子弁。
知らない言葉は、
家族や近所のおじさ
んおばさんに発音を
教えてもらいましょ
う。いつの間にかあ
なたも便利な銚子弁
のとりこになるはず。

「かっぺる」=「かぶせる」

〔使用例〕シートば、かっぺえどぐだど
シートをかぶせておくんだよ



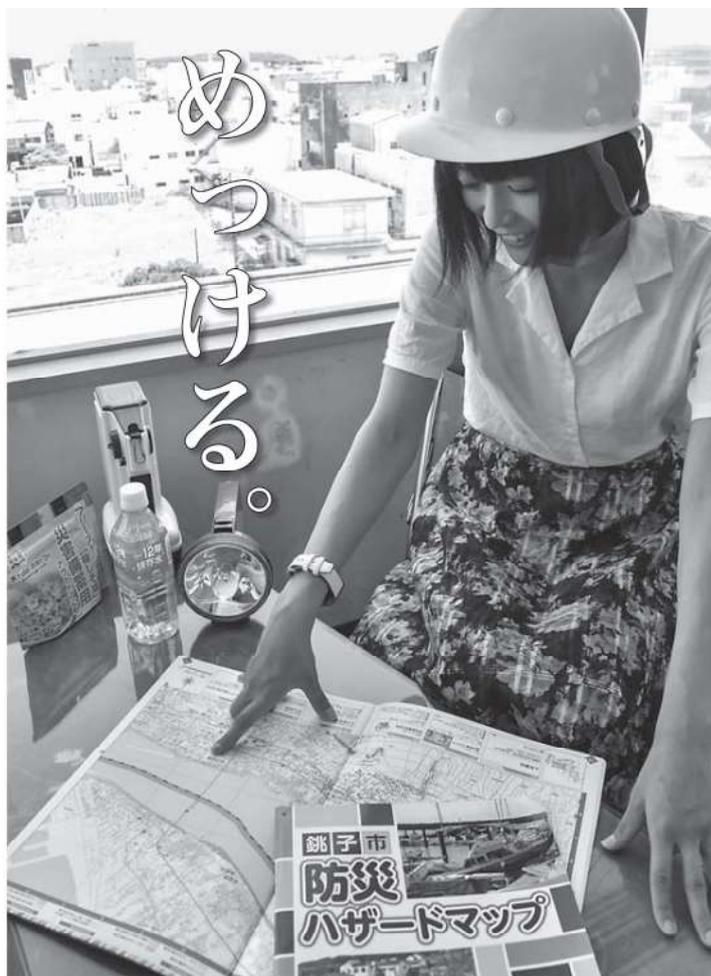
使ってみよう
銚子弁

愛すべき銚子弁。
知らない言葉は、
家族や近所のおじさ
んおばさんに発音を
教えてもらいましょ
う。いつの間にかあ
なたも便利な銚子弁
のとりこになるはず。

「めっける」=「見つける」

〔使用例〕まず、おらいばめっけたど。

＼災害時の状況を知っておこう／
ハザードマップで、最初に自宅を確認！



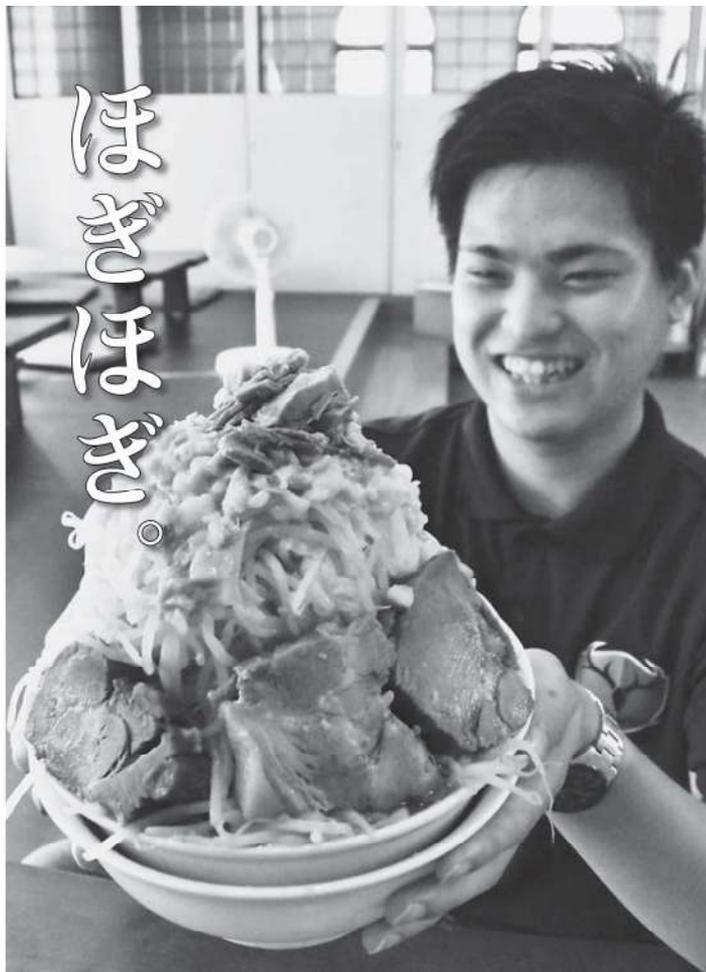
使ってみよう
銚子弁

愛すべき銚子弁。
 知らない言葉は、
 家族や近所のおじさ
 んおばさんに発音を
 教えてもらいましょ
 う。いつの間にかあ
 なたも便利な銚子弁
 のとりこになるはず。

「ほぎほぎ」=「たっぷり」

[用例] 大盛、野菜マシマシ、豚マシダブルで!

食欲の秋だがんな。ほぎほぎ食わせーよ



使ってみよう
銚子弁

愛すべき銚子弁。
 知らない言葉は、
 家族や近所のおじさ
 んおばさんに発音を
 教えてもらいましょ
 う。いつの間にかあ
 なたも便利な銚子弁
 のとりこになるはず。

「いっちょまわり」=「一巡すること」

[用例] あんだおめえ、大荷物だーなあ!

バーゲンだから、いっちょまわりしてっだよ。



使ってみよう
銚子弁

愛すべき銚子弁。
 知らない言葉は、
 家族や近所のおじさ
 んおばさんに発音を
 教えてもらいましょ
 う。いつの間にかあ
 なたも便利な銚子弁
 のとりこになるはず。

「のげのり」=「ふくろふのり」

[使用例] のげのりの味噌汁がうめーだよ。

なんとも言えぬ食感と磯の香りが最高



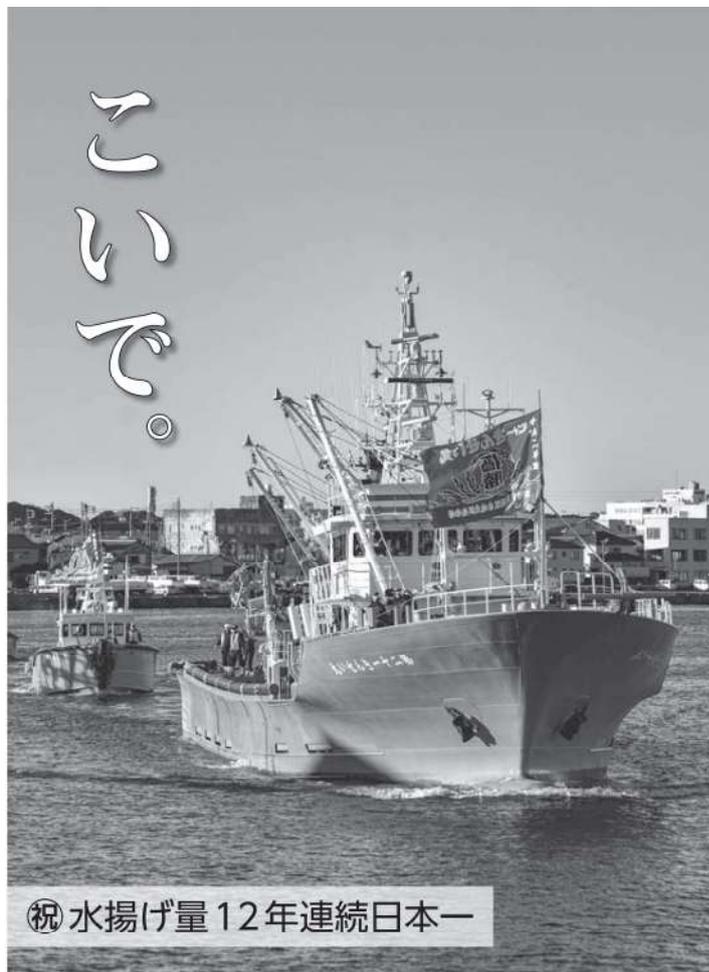
使ってみよう
銚子弁

愛すべき銚子弁。
 知らない言葉は、
 家族や近所のおじさ
 ん、おばさんに発音を
 教えてもらいましょ
 う。いつの間にかあ
 なたも便利な銚子弁
 のとりこになるはず。

「こいで」=「漕出。初出漁船」

[使用例] よー、明日が漕出式らしいど！

吉日を選んで、年明けに漕出式が行われる。
 川口神社の前を取り舵(左廻り)3回して入港する。



使ってみよう
銚子弁

愛すべき銚子弁。
 知らない言葉は、
 家族や近所のおじさん、
 おばさんに発音を
 教えてもらいませう。
 いつの間にかあなたも
 便利な銚子弁のとりこになるはず。

「うでる」=「ゆでる」

〔使用例〕おーし、今夜は、タゴうでっペーや!



使ってみよう
銚子弁

愛すべき銚子弁。
 知らない言葉は、
 家族や近所のおじさん、
 おばさんに発音を
 教えてもらいませう。
 いつの間にかあなたも
 便利な銚子弁のとりこになるはず。

「のぜえる」=「物がつかえる」

〔使用例〕桜餅、ゆっくり食わねーど、のぜえっと!

発展活用例 「のぜえるほど」=「たくさん」

＼桜餅を發明したのは銚子の人／

【出典 銚子市史】

現在の東京都墨田区向島にある長命寺の門番をしていた銚子出身の山本新六が享保2年(1717年)に桜の木の葉を醤油樽で塩漬けにして、餅を包んで門前で売り出したのが長命寺桜餅の始まりと言われている。

